

学習院大学史料館所蔵史料目録 第五号

中川善之助寄贈文書  
(下)



## 序 文

一昨年より当館所蔵史料目録の第三・四号として「中川善之助寄贈文書」の全目録と、未公刊の主として近世史料を刊行してきたが、本書はこれの最終巻をなすもので、本書によって「中川善之助寄贈文書」のうちの近世史料の刊行はすべて終了したことになる。

本書には、第四号に引き続いて仙台藩関係文書と、それに会津藩の「御法度書」を収録した。このうち、本書の大半を占めている会津藩「御法度書」は、藩祖保科正之の寛永期から容敬の文政期にいたる、家臣に対する法度(禁令)を編纂したものである。この編纂がどこで、誰の手によって行なわれたものであるかは不明であるが、これによって主として会津藩家臣の生活の様子、たとえば困窮状態などが知られて興味深い。最近、豊田武氏を監修者として『会津藩家政実紀』が刊行されつつあり、会津藩政史研究はなお一層さかんになっているが、本史料がそれに寄与するところがあれば幸いである。また、伊達邦成の「手控」は、明治初年に北海道の開拓に入った仙台藩家臣の動向を伝えるもので、これも大変興味深い史料といえよう。史料中、明治三年の有珠郡におけるアイヌの「家数人別調」などで、アイヌのことを「土人」と呼ぶような問題の箇所もあるが、これも歴史的史料として、とくにアイヌの家族構成などが知られて貴重だと思われるので収録した。諒とされたい。

なお、本書の作成には主として在原昭子、齋藤洋一、須田由美子、高澤憲治の諸氏があたった。

昭和五十五年二月二十五日

## 例言

一、本書は、昭和五十一年に令夫人中川綾子氏より学習院大学史料館に寄贈された、故中川善之助氏所蔵文書のうちの仙台藩関係史料と会津藩関係史料を収録したものである。

一、史料筆写は、通例の古文書筆写要項に従ったが、そのうちの主な点を示すと以下の通りである。

- (1) 適宜読点をつけた。
- (2) 漢字は原則として当用漢字とした。
- (3) 仮名は、而・江・さ・べ・片・片・と・しは生かし、その他は平仮名に改めた。
- (4) 誤字・あて字等は適宜（ ）で、補足・訂正した。
- (5) 闕字は一字あけ、平出・擡頭は二字あけで示した。

中川善之助寄贈文書(下) 目次

史料の部 ..... 1

一四 御法度書(会津藩) 卷一、卷二、卷三合卷

一五 御法度書(会津藩) 卷四、附録合卷

一六 御触留(仙台藩)

一八 手控(北海道開拓関係記録)

中川善之助寄贈文書解説 ..... 231



史料の部